

## 令和7年度第3回一関市下水道事業等経営審議会 会議録

- 1 会議名 令和7年度第3回一関市下水道事業等経営審議会
- 2 開催日時 令和8年1月22日(木) 午前10時から午前10時55分まで
- 3 開催場所 一関市役所 全員協議会室
- 4 出席者
  - (1) 委員 菅原繁雄委員(会長)、石川晃委員(副会長)、鈴木千景委員、佐々木英昭委員、橋本京子委員、菅原悦子委員、三浦正勝委員、伊藤峰雄委員、山居淳子委員
  - ※欠席者 皆川かおり委員
  - (2) 事務局 伊東吉光上下水道部長、小山力上下水道部次長兼下水道課長、阿部正則上下水道部次長兼東部上下水道課長、小野寺勝也経営総務課長、大沼誠治下水道課長補佐兼普及係長、氏家知幸下水道課長補佐兼下水道工務係長、小野寺重孝東部上下水道課長補佐兼下水道係長、米田理恵子経営総務課長補佐兼総務係長、加藤智子経営総務課下水道経営係長、小野寺学経営総務課主査、金野蓮経営総務課主任主事、皆川祐二郎経営総務課主事

### 5 内 容

#### (1) 議題

ア 前回会議の概要

イ 諮問事項に係る答申案について

#### (2) 答申

令和9年度以降の下水道施設整備について

### 6 公開、非公開の別 公開

### 7 傍聴者 3人(うち報道機関3人)

### 8 会長挨拶

寒波が襲来し足元が大変な中、委員の出席について感謝する。

本日は諮問に対する答申を控えているので、スムーズな進行に努めてまいりたい。

### 9 議 題

#### (1) 前回会議の概要について

事務局から、第2回までの会議において委員から質問等があった項目について説明を行った。

#### (2) 諮問事項に係る答申案について

事務局から、答申書案について説明を行った。以下、質疑応答等。

委 員 答申書の内容はこれでいいと思うが、一点確認したい。

前回の会議資料において、収入源としての下水道使用料と支出の部分が非常に乖離していたと思う。そのところについては、これ以降の審議となるのか。

要は、下水道料金の値上げとかそういった話は、どのように進められていくのか。今のままでは、赤字になるのは見えている。下水道の老朽化に伴う設備更新に向けた積立など、償却を含めて考えるべきではないかと思う。その辺りは今後、審議対象として出てくるものか。

事務局 ただ今の質問について、ご心配いただき感謝する。

確かに、財政見通しはかなり厳しい数字となっており、使用料の改定に関して本腰を入れて検討しなければならない時期にきている状況にある。今年度は令和9年度以降の下水道の施設整備についての諮問をさせていただいたところであるが、令和8年度は汚水処理計画の改定をしなければならない年度となっており、この改定に係る審議会の開催を予定している。

汚水処理計画の改定においては、施設整備の方針や財政見通しなども含んだ検討が必要であり、当然、料金の話にも触れなければならないと考えている。今年度は使用料の関係についての諮問ではないため、案件としては直接触れていないが、来年度にはそういったことも含めた計画作りにご参加をいただきたいと考えている。

#### 10 答申

菅原会長から市長へ、令和9年度以降の下水道施設整備についての答申を行った。

#### 11 市長挨拶

ただいま会長から令和9年度以降の下水道施設整備に関する答申を頂戴した。

昨年10月の諮問以降、慎重なご審議を頂戴し、本日までお疲れ様でした。

下水道整備、いわゆる汚水の処理について考えたとき、一関市や日本全国の自治体が置かれている現状の最たる課題はやはり人口減少である。人口が増えていく、あるいは維持されていくことを前提として、昭和の時代に様々な社会インフラの整備が進んだところであり、その中の一つが下水道である。昭和の頃の見込みとは違った局面で現状が進行している中で、その頃に立てた計画なり方針なりをそのまま維持してやっていくことが果たして正解なのか、という大きな疑問の中での諮問とさせていただいた次第であった。

下水道の整備については、下水道という手法での汚水処理にかかる新規事業は行わず、浄化槽でという方向に切り替えるという答申であり、全くそのとおりだと私も思っている。

今後は本日の答申を踏まえた上で、計画の改定・策定や戦略の見直しなどを行っていくことになる。答申書の附帯意見にもあるとおり、一関市を取り巻く状況はどんどん局面が変わっていくと思われる。現状で見通せる将来の需要や、供給できる財源も含めての量などについては、現時点のものは見定めたところであるが、以降は計画を作り進行を管理していくステージに移っていく。そうした中においても、やはり状況は常に変わっていくので、その時点ごとの見直しは絶えず行う必要があると考えている。

私たちが暮らしていく中で汚水処理は非常に重要な事柄であり、私たちが社会としてどのように向き合っていくかといったところについては、その技術面あるいは財源論も

含めて継続して検討しながら、一番いい答えを模索していくことが続いていくものと思う。

そういった観点から、今現在私たちが見通せるものを踏まえて今日の一定の結論に至ったところであり、大変ありがたく思っている。一関市は昨年、新一関市になってからちょうど20年、20歳になったところであり、4月からは21年目に入る。総合計画審議会において新しい総合計画を審議いただき、先日答申をいただいたところであるが、その中で一番象徴的な言葉は「挑戦」という言葉であった。この言葉が象徴しているのは、多種多様な分野で、それぞれがいろいろなことに挑戦していくことが可能なまちになっていくことだと思っているが、そのためにはやはり、毎日の暮らしがしっかり成り立たないと、そのような挑戦は成り立たない。象徴的な例として、これから人口が減るなど、どんどん状況が変わっていく中で、間違いなく変えてはいけないもの、持続していかなければならないものの一つに、上下水道がある。朝起きて、水道の蛇口からちゃんと水が流れる、トイレに行けばちゃんと水が流れる、そういったところを維持していくことは不可欠であるが、実はそうしたものを維持していくことが一番大変なことになってくる。その一番大切なものを維持していった上でしか、地域の活性化や街の研究は成り立たないので、皆様にはもっともベーシックな部分をご議論いただいたと思っている。

本日頂戴した答申を踏まえ、市が策定する様々な計画の改定や経営戦略の見直しなどを通して、きちっとした毎日の暮らしが成り立つよう努めてまいりたい。

改めて皆様方の慎重なるご審議に感謝を申し上げ、私からの挨拶とさせていただきます。

12 担当課 上下水道部経営総務課